

## 第6章 外国語科の取組

### I 昨年度の英語科の研究概要

#### 研究テーマ

「概要や要点を捉える力を育成する指導の工夫」

#### 成果と課題

##### 成果

生徒の「英語読解は一語一語日本語に訳すこと」という考え方が、「英語読解は、たとえ分からない単語があったとしても、本文の流れや段落同士のつながりを考えて、概要や要点を捉えること」に変化したことである。それにより、概要や要点に関する問いに対する理解度は上がった。7月進研模試と11月進研模試で研究授業を行ったクラスの長文部分（大問5，6）の得点を比べると、7月模試が全国平均より+0.7ポイントだったのに対し、11月模試は+3.8ポイントと伸びている。偏差値も、52.7から53.9に伸びがみられた。細かい部分にとらわれすぎずに大意を捉える力についてはついてきていると思われる。

##### 課題

概要や要点を読み取ることには改善が見られている。しかし、概要や要点を読み取った上で、それらに対して、既習事項（語彙や文法）を駆使して、自分の意見等を表現することに課題がある。そこで、指導面において、学習事項（＝インプット）は、アウトプットするためにあるという意識を持たせ、自分の意見を表現する指導の工夫が必要となる。

### II 今年度の研究テーマ

「論理的に表現できる力を身に付けさせるための指導の工夫」

#### 1 平成27年度センター試験の結果

##### ア 実態

一部、文法・語法の問題の正答率が低い問題も見られたが、全体的に改善がみられた。

##### イ 分析と考察

基礎的・基本的知識は身に付きつつある。

#### 2 近年の「高大接続改革」の動向を踏まえて

##### ア 動向（中教審答申 2014.12.22 から）

高等学校を通じて、

- (i) これからの時代に社会で生きていくために必要な「主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を養うこと、
- (ii) その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと、
- (iii) さらにその基盤とある「知識・技能」を習得させること。

## イ 所属校での課題

前述のアを踏まえると、生徒に「思考力・判断力・表現力等の能力」を育むことが必要となり実際にそのような力を問う問題が大学入試において増加していく。そのような状況に対応できる生徒を育成していかなければならない。しかし、現状では次の課題がある。

### (1) 生徒の実態

基礎的・基本的知識・技能は身に付きつつある。しかし、既習の事項を組み合わせたり、活用してアウトプットすることが苦手である。また、根拠や具体例等を示して、論理的に説明したり自分の意見を述べることが十分でない。

### (2) 指導上の課題

基礎的・基本的知識・技能を必要とする発問や活動が多くなりがちであることが課題である。英作文やスピーキング活動を随時取り入れているが、それらが計画的に配置されていない。既習事項を組み合わせたり、活用する言語活動を取り入れたり、また、論理的に説明したり自分の意見を述べる言語活動が十分でない。また、単に言語活動の回数を増やすことだけでなく、活動を生徒の実態に応じて段階的に且つ計画的に行う必要がある。加えて、生徒が教えあうといった協働活動を取り入れて、力の定着を図る。

## 3 研究の基本的な考え方

### ア 生徒に身に付けさせたい力

「論理的に表現できる力」とは、既習事項を活用したり、根拠や具体例を明示して、読んだり、聞いたりしたことを説明したり、そのことに対して、自分の意見を分かりやすく書いたり、話したりする力である。

### イ 力を身に付けさせるための手立て

アクティブラーニング的視点を取り入れた活動を充実させる。具体的には、言語の実際の使用場面としてのパフォーマンス課題を設定し、学習したことを活用させ、思考を促し、表現力を育成する。

- ・本文の内容に関連している別の英文を読み、そこから共通点や相違点を読み取り、それを説明したり、自分の意見を述べる活動を計画的・段階的に取り入れる。
- ・生徒同士が意見を述べ合ったり、ルーブリック評価を提示し、自分の解答・パフォーマンスの分析や事後の自分の課題を認識して、学習に向かう姿勢を育成する。

### Ⅲ 外国語（英語）科学習指導案

授業者 石村まさみ

- 1 日 時 平成 27 年 11 月 6 日（金）第 5 限
- 2 場 所 2 年 5 H 41 名（男子 10 名 女子 31 名）
- 3 対 象 普通科 2 年 5 H
- 4 単元名 Lesson 6 Shedding Tears for My Patients  
[PRO-VISION English Communication II (桐原書店)]

#### 5 単元について

##### （1）教材観

本課は、小児がん専門の小児科医である細谷亮太氏の、その職を志すにいたったきっかけやその 40 年のキャリアの中での悲しい経験や挫折を味わい、希望を失いそうになりながらも、仕事を続けてきた半生について述べている。細谷氏は、病気と闘う子ども達のために、一生懸命に努力する中で、自分の存在意義や生きがいを見つけることができた。そんな細谷医師の姿から、生徒に今後の生き方を考えるきっかけになる教材と考えている。

そこから、自分の将来の自分の職業について英文でまとめ、発表し、それについて話し合う 4 技能を結び付けた言語活動を行う上で適切な教材であると思われる。

##### （2）生徒観

2 年生普通科の文型クラスである。学力状況は、進研模試 7 月クラス平均の偏差値は 55.2 である。分野別の結果では、長文読解が全国平均を大きく上回っている。学習状況に関しては、今年度の当初のスタディサポートの結果から、特徴的なものを挙げる。1 つ目は、英語を得意と思っている生徒が学年の中で一番多いということである。2 つ目は、英語の自宅学習には宿題と予習や復習に取り組んでいる生徒が 80% を超えている点である。この結果から、英語が苦手と感じている生徒もいるものの、宿題や予習・復習といった英語学習の基本的なサイクルについては定着しつつあることが分かる。英語学習に対して肯定的にとらえている生徒も比較的多い。

上記の学習状況などから判断すると、基礎的・基本的知識・技能が身に付きつつあると言える。しかし、生徒のスキルに注目した場合課題が見える。具体的には、理由や根拠や具体例を明示して、読んだり聞いたりしたことを説明したり、そのことに対して、自分の意見を分かりやすく伝える力が十分であるとは言えない。これまでの言語活動の状況では、理由や根拠の説得性に問題はあるものの、事前に与えられたトピックについて自分の考えを書くことには積極的に取り組む。7 月に行った授業実践において、書いてきたことに発表活動を行った。その発表に対する質問に答えることができない生徒が多かった。加えて、このクラスの生徒は、自分の将来の職業や目標に対して、明確に決めることができていない、またはまだ悩んでいることが 25% いることが 9 月末に行ったアンケート結果から分かる。

##### （3）指導観

今回の研究テーマである、「論理的に表現できる力」とは、既習事項を活用したり、根拠や具体例を明示して、読んだり聞いたりしたことを説明したり、また、そのことに対して、自分の意見を分かりやすく伝える力と定義づけた。そのため、その力を育成するために、指導に当たっては、次の 3 点を工夫する。

1つ目は、内容読解に関してである。内容読解は、次の項目で挙げる言語活動への準備段階と捉えている。具体的には、細谷医師を相手にインタビューを行うロールプレイングを行うことで、本文の内容読解を行う。インタビューの質問は、次の項目で挙げる言語活動の中で、生徒が聞かれる質問を含む。また、細谷医師の答えが、理由や具体例があることに気付かせることで、生徒自身が身に付ける力（＝論理的に表現できる力）を認識できることを目指している。

2つ目は、複数の技能を組み合わせた言語活動を導入することである。自分の将来の職業や目標について英文をまとめ、発表する活動を行う。その際には、パフォーマンス課題として、「面接試験」という場を設定する。生徒が面接官と受験者という立場で質疑応答を行う。受験生である生徒は、面接官が質問してくる内容を予測して、準備をする。面接官は、受験生に質問を行う。この言語活動を通して、分かりやすく伝えるためには、理由・根拠が必要であることや話し手を意識しなければならないことを認識させたい。

3つ目は、生徒にはルーブリック評価を提示し、自己評価をさせる。このルーブリック評価で重要な項目は、2つある。1つ目は、自分の意見とその理由に一貫性があるかという点と、質問に答えることができたかという点である。これを通して、学習者自身が、自分の意見の分析と課題を把握することができ、事後の改善につなげることを目的としている。

最後に、この言語活動を、将来の目標について迷っている生徒に、それを考えさせる機会と考えている。「総合的な学習の時間」においても、日本語で将来の目標を書かせる指導を行う。同じ時期に、生徒に自らの生き方を考えさせる機会を持たせることは、これからの進路決定に有益であると考える。

## 6 単元の目標

- 自分の意見を述べ、話し合う活動に積極的に参加している。  
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- 自分の将来の職業・目標をその理由とともに表現する。（外国語表現の能力）
- 細野医師の意見の概要について理解する。（外国語理解の能力）
- 話し合い活動の際に有用な表現について理解する。（言語や文化についての知識・理解）

## 7 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
自分の意見を述べ、話し合う活動に、有用な表現を使いながら積極的に参加している。	自分の将来の職業・目標をその理由とともに表現できる。	細野医師の意見の概要について理解できる。	話し合い活動に必要な表現について理解している。

## 8 指導と評価の計画（7時間）

次	学習内容（時数）	評価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	Part 1（1時間） ・ Oral Introduction ・ 新出言語材料の確認 ・ 内容理解 ・ 音読 ・ 内容理解のペアワーク			○		ウ	観察 ワークシート

2	Part 2 (1時間) ・前時の復習 ・新出言語材料の確認 ・内容理解 ・音読 ・内容理解のペアワーク			○		ウ	観察 ワークシート
3	Part 3 (1時間) ・前時の復習 ・新出言語材料の確認 ・内容理解 ・音読 ・内容理解のペアワーク			○		ウ	観察 ワークシート
4	Part 4 (1時間) ・前時の復習 ・新出言語材料の確認 ・内容理解 ・音読 ・内容理解のペアワーク			○		ウ	観察 ワークシート
5	Lesson 全体のまとめと表現活動への導入 (1時間) ・Part 1～4の内容について、適語補充により要約文完成 ・次時の目標、学習内容の確認 話し合いに有用な表現について学習			○	○	ウ・エ	観察 ワークシート
6	表現活動 (1時間) ・自分の将来の目標について書いたものから、面接の準備をする。(予想される質問と答えを考える)		○			ア イ	観察 ワークシート
7 本 時	表現活動 (1時間) ・自分の将来の目標についての質疑応答を行う。 ・自分の面接について反省を行う。	○	○			ア イ	観察 ワークシート

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

- 自分の将来の目標について、その理由を明確にして、英語で発表する。(外国語の表現の能力)
- 英語面接に必要な表現を使いながら積極的に参加している。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

### (2) 本時の評価規準

- 自分の将来の目標について、その理由を明確にして、英語で発表できる。(外国語の表現の能力)
- 英語面接に必要な表現を8回以上使うことができる。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(3) 準備物

教科書 辞書 ワークシート

(4) 本時の学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手当て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の目標等を確認する。 (7分)	ワークシートで確認させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     Today' Aim: To give and take the interview tests on your future career.                 </div>		
2 自分の職業についてグループで発表する準備を行う。(7分)	◇発表の練習を個々で行う。相手に伝わるように、キーワードはゆっくり発音させる。 ◆難易度の高い語彙を使っている場合は、どうすれば聞き手が分かりやすくなるか指導する。(簡単な語への言い換え、パラフレーズ等)	
3 1名ずつ面接を行う。4人グループの残り3名が面接官となる。(5分×4人=20分)  4 グループで1人ずつ、どの人の面接が良かったかをその理由とともに述べる(9分)	◇話し合いに有用な表現を積極的に使わせ、英語で話す活動の雰囲気を作る。 ◇1名の受験生は、聞かれたことに対して応答する。残りの3名は、1名が質問を行い、他の1名は追加質問、最後の1名は記録を行う。 ◆質問に答えられない場合にも、沈黙することなく、ワークシートにある表現を使って答えるように指導する。	自分の将来の目標について、その理由を明確にして、英語で発表する。〔外国語の表現の能力〕(活動の観察) ・自分の意見を述べ、話し合う活動に、必要な表現を8回以上使うことができる。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕(ワークシート・活動の観察)
5 自己評価(7分)	◇ワークシートで自己評価を行わせる。	

10 ワークシートの例

Lesson 6 Post-Reading Activity

“Interview Test Sheet “

2-( )H No.( ) Name ( )

No.4



Task :いよいよ面接試験当日を迎えました。あなたは、受験生（面接官）となって、面接試験に臨んでください。

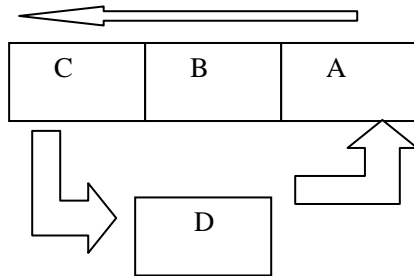
Today's goal: ( ) on your future career.

Evaluation:

判断基準 評価項目	C	B	A
論理性	質問に答えることができなかった。	自分の将来の目標についての質問に、理由などはないが答えることができた。	自分の将来の目標についての質問に理由などを補足して答えることができた。
即興性	最後の質問の意味を理解できず、答えることができなかった。	最後の質問の意味を理解できたが、答えることはできなかった。	最後の質問の意味を理解して、答えることができた。
話し合い		聞き取ったことから、受験生に英語で質問をすることができなかった。	聞き取ったことから、受験生に英語で質問をすることができた。
フレーズ	必要なフレーズを4回以下しか使えなかった。	必要なフレーズを5回以上使うことができた。	必要なフレーズを8回以上使うことができた。

- Procedure :
- STEP 1 To set today's goal
  - STEP 2 To explain procedure and each role
  - STEP 3 To practice interview tests
  - STEP 4 To take and give interview tests
  - STEP 5 To evaluate today's performance

Desk Arrange:



- Role:
- A= Note-Taker
  - B= Interviewer 1 (ice-breaking, greeting)
  - C=Interview 2 (Ask questions )
  - D= Student

☆The best student in our group is ( )  
Why?

☆使ってみようフレーズ (If you used it, please circle it)

Role B (Interviewer 1) の時

- I see. ( )                      • Sounds good. ( )    • Really? ( )
  - That's wonderful./ interesting. ( )    • Could you say that again, please? ( )

Role D (Student) の時

使えるフレーズ 使えるフレーズ 5つの内、会話の途中にいくつ使えるか！！

- Um..... ( )
  - Well..... ( )
  - I mean ( )
  - I don't know what to say, but..... ( )
  - Could you say that again, please? ( )
  - I'm sorry I can't answer that question. ( )

☆Self-Evaluation

判断基 準 評価項目	C	B	A	YOUR RANK
論理性	質問に答えることができなかった。	自分の将来の目標についての質問に、理由などはないが答えることができた。	自分の将来の目標についての質問に理由などを補足して答えることができた。	
即興性	最後の質問の意味を理解できず、答えることができなかった。	最後の質問の意味を理解できたが、答えることはできなかった。	最後の質問の意味を理解して、答えることができた。	
話し合い		聞き取ったことから、受験生に英語で質問をすることができなかった。	聞き取ったことから、受験生に英語で質問をすることができた。	
フレーズ	必要なフレーズを4回以下しか使えなかった。	必要なフレーズを5回以上使うことができた。	必要なフレーズを8回以上使うことができた。	

☆この活動を通して、学んだことを書いてください。



#### IV 研究授業後の取組

<p>授業者から 指導の工夫等</p>	<p>日頃からの工夫について 生徒に表現活動をさせる際には、フォーマットを与えてくこと、表現することは難しく、重要な活動であることを生徒に認識させる。</p> <p>評価について ルーブリック評価を行った。どこまでをきちんとやらなければならないかを認識させる。</p> <p>パフォーマンス課題について 状況・場面を具体的にイメージさせるようなものにするこことで、動機づけをする。</p>
<p>協議・助言等 の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の準備に加え、「英語で質問をし続ける」即興性を加えている点が良い。</li> <li>・具体的な場面設定が大切だと思った。</li> <li>・生徒の「うまくできない」というもどかしさが次につながるのではないか。</li> <li>・数人の生徒が間違った英語を使っていた。事前の英語の添削指導も必要なのではないか。</li> <li>・ジェスチャーを交えるなどして、コミュニケーションができていた。</li> <li>・最後のフィードバックの部分をもう少し検討すべき。</li> <li>・英語をしゃべる必要性を感じさせるような授業（必然性）が必要である。</li> <li>・今回は紙を見ながらしゃべる生徒もいたが、何も見ずに話させる指導も今後必要になる。</li> <li>・生徒と教師の信頼関係がしっかりしている。</li> <li>・何ができなかったのかを明確にさせる。</li> <li>・英語を話す楽しみや喜びにつながる授業</li> <li>・生徒から出された意見を聞く時間があればよかった。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指している能力が身についているかどうかをどう評価するのか</li> <li>・動機づけが低い生徒たちに対する手立ての工夫</li> <li>・アクティビティ時と教科書読解の際の生徒の温度差をどう解消するか。</li> </ul>

## V 今年度の研究を終えて

### 1 研究テーマ「論理的に表現できる力を身に付けさせるための指導の工夫」

#### (1) 研究テーマ設定の理由

生徒の現状として、基礎的・基本的知識・技能は身に付きつつある。しかし、既習の事項を組み合わせたり、活用してアウトプットすることが苦手である。指導としては、1年次から、自分の意見を英語で表現する言語活動を取り入れている。生徒の英作文などを分析すると、理由や根拠が述べられていないものや、述べられていても説得性に欠けるものが多かった。1(2)にあるように定義付けを行い、論理的に表現できる力を身に付けさせることを研究テーマに設定した。また、工夫点として、2点挙げる。できるだけ具体的なコミュニケーションの場面やその目的が明確なパフォーマンス課題を設定すること、それを具体的に評価するためにルーブリック評価を取り入れることである。

#### (2) 身に付けさせたい力の定義

「論理的に表現できる力」とは、既習事項を活用したり、理由・根拠や具体例を明示して、読んだり、聞いたりしたことを説明したり、そのことに対して、自分の意見を分かりやすく書いたり、話したりする力である。

### 2 研究の仮説

パフォーマンス課題を設定することは、「論理的に表現できる力」を育成することに有効である。

### 3 仮説の検証

#### (1) 対象

第2学年 41名 (男子10名 女子31名)

#### (2) 検証の方法

理由・根拠や具体例を明示して、自分の意見を表現できるようになったかを、生徒のワークシートで評価する。また、「論理的に表現できる力」や「パフォーマンス課題」に対する生徒の意識を把握し、それが授業実践を通して、変化があったかをアンケートで検証する。

#### (3) 検証結果

##### 【第1回研究授業】

パフォーマンス課題

「プロダクトデザインの会社で商品のオリジナルキャッチコピーを英語でプレゼンテーションする」  
ワークシートによる評価

評価規準

結果

評価	評価基準		人数	%
A	キャッチコピーとそれを考えた理由に一貫性がある。(本文を根拠にしている。)	A	28	68.2
B	キャッチコピーとそれを考えた理由に一貫性がない。(本文を根拠にしていない)	B	11	26.8
C	キャッチコピーだけしか書いていない。	C	2	5

アンケートによる評価

・「論理的に表現するためには何が必要だと思うか。」語彙・文法と回答した生徒 95%

根拠理由と回答した生徒 62%

- ・具体的な言語の使用場面（＝パフォーマンス課題）がある方が、英語で表現したいという意欲が高まると思う。

「そう思う」と「ややそう思う」と回答した生徒 85%

### 【第2回研究授業】

パフォーマンス課題

「受験生として大学の面接試験を受ける」

ワークシートによる評価

評価規準

結果

評価	評価基準		人数	%
A	自分の将来の目標についての質問に理由などを補足して答えることができた。	A	35	85.3
B	自分の将来の目標についての質問に、理由などはないが答えることができた。	B	6	14.6
C	質問に答えることができなかった。	C	0	0

アンケートによる評価

- ・「論理的に表現するためには何が重要だと思うか。」語彙・文法と回答した生徒 90%
- 理由・根拠と回答した生徒 70%
- 具体例と回答した生徒 82%
- ・具体的な言語の使用場面（＝パフォーマンス課題）がある方が、英語で表現したいという意欲が高まると思う。

「そう思う」と「ややそう思う」と回答した生徒 92%

## 4 授業後観察者の意見

- ・具体的な場面設定が大切だと思った。
- ・生徒の「うまくできない」というもどかしさが次につながるのではないか。
- ・英語をしゃべる必要性を感じさせるような授業（必然性）が必要である。
- ・英語を話す楽しみや喜びにつながる授業
- ・目指している能力が身につけているかどうかをどう評価するのか
- ・動機づけが低い生徒たちに対する手立ての工夫
- ・アクティビティ時と教科書読解の際の生徒の温度差をどう解消するか。

## 考察

1学期段階より、自分の意見に理由や根拠を伴って自分の意見を表現する生徒は増えた。またそのような言語活動に対して肯定的にとらえる生徒も増えている。論理的に表現するためには、理由根拠を明示しなければならないと認識する生徒は増えた。

## 5 成果と課題

自分の意見を理由・根拠を明示して、論理的に表現する力を育成するためには、パフォーマンス課題を設定することは有効であると感じた。それにより生徒が意欲的にコミュニケーションに取り組むだけでなく、これまで育成したことを活用したり、思考することを促すことができる。しかし、パフォ

ーマンス課題の設定を課題として挙げる。生徒に付けさせたい力を確実に必要とする課題を設定するのは難しいということである。加えて、生徒が自分の意見を理由・根拠を明示して、論理的に書こうとすればするほど、自分の考えを適切に表現する語彙力・文法力の不足を感じ、自分の課題として認識する。事後指導を含めて、言語活動の中で生徒の英語の運用能力を向上させる指導を継続的に行う必要があると感じた。具体的には、言語活動後「もっとこのように伝えたかった」「このように書きたかった」という意欲があるうちに、その表現を自分で調べ、グループで共有する活動を行い、その定着を図る活動を考えている。

